イカ類漁海況情報収集・提供事業（要約）

今村豊・長野晃輔

目　的

スルメイカ、アカイカの分布・回遊、漁況等の調査結果を、漁業関係者に漁海況情報として提供を行い、効率的な操業の一助とし、漁業経営の安定、向上に資する。

材料と方法

1. 学習会の開催

漁業者を対象とした学習会を開催し、スルメイカ、アカイカに関する前漁期の状況、本県漁期前の情報を発信した。

2. 漁獲動向調査

日本海主要港（小泊、下前、鰺ヶ沢、深浦）、津軽海峡主要港（大畑）、太平洋主要港（白糠、八戸）におけるイカ類の月別漁獲量調査を行い、漁獲状況の基礎資料とした。

結　果

1. 学習会の開催

2019年4月24日に八戸市で中型イカ釣り漁船漁業者を対象に学習会を開催し、操業船の漁獲結果から推定した前漁期の状況、資源の状況等について説明した。また、5月22日に東通村（東通村連合研究会）、6月8日に泊漁業協同組合、2020年1月15日に小泊漁業協同組合おいて、小型漁船漁業者を対象とする学習会を開催し、スルメイカの前年の漁況、国立研究開発法人水産研究・教育機構の調査結果、本県の漁況について説明した。

2. 漁獲動向調査

(1) 近海スルメイカ

2018年度の近海スルメイカの水揚動向について、主要港全体でみると、水揚げ量は2,349トンで、前年比221%、近10年平均比45%であった。また、CPUEは215.0kg/隻で、前年比154%、近10年平均比56%であった。

海域別にみると、日本海（小泊・下前・鰺ヶ沢・深浦港）の水揚量は664トンで、前年比445%、近10年平均比70%であった。また、CPUEは246.5kg/隻で、前年比103%、近10年平均比57%であった。大畑港の水揚量は216トンで、前年比205%、近10年平均比26%であった。また、CPUEは115.3kg/隻で、前年比185%、近10年平均比41%であった。白糠港の水揚量は540トンで、前年比199%、近10年平均比56%であった。また、CPUEは152.0kg/隻で、前年比173%、近10年平均比67%であった。八戸港の水揚量は930トンで、前年比173%、近10年平均比38%であった。また、CPUEは330.8kg/隻で、前年比136%、近10年平均比58%であった。

(2) 船凍スルメイカ

最近5年間(2014～2018年)の動向をみると、延べ航海回数（水揚回数）は91回から166回で、平均121回となっている。2019年は23回で、前年比25%、近5年平均比19%となった。また、同期間の八戸港における船凍スルメイカの年間水揚量は5,031トンから12,848トンで、平均8,145トンであった。2018年度は410トンで、前年比8%、近5年平均比5%となった。1航海当りの水揚量は55トンから77トンで、平均66トンとなっている。2019年度は18トンで、前年比32%、近5年平均比27%であった。

発表誌：令和元年度イカ類漁場開発調査資料第45号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集　令和3年12月予定